

# 五島慶太未来創造館（仮称）整備基本計画



令和元年 6 月

青 木 村

# 1 整備の背景と目的

青木村の先人・五島慶太翁（旧姓：小林）は、類まれなる経営手腕で東急グループの礎を築き上げた実業家であり、多くの大学への支援を惜しまなかった教育者でもありました。まさに“未来を見据え 都市を拓き 人を育てた”郷土の偉人です。

その慶太翁を育んだ生家は、つい最近まで青木村殿戸地区に現存していましたが、平成30年8月14日（奇しくも慶太翁の命日）に落雷の被害を受け、残念ながら解体されてしまいました。これを機に青木村では、東急グループ・五島育英会等のご支援も賜り、「五島慶太未来創造館（仮称）」（以下「本施設」という。）の建設に着手することになりました。

村づくりの原点は人づくりであり、本施設は、慶太翁の功績や建学精神を知り、学べる場として、郷土に誇りをもち大きな志を抱いて次代の社会や村づくりに貢献できる人材の育成に資するとともに、地域内外から多くの人々を呼び込むことによって、青木村の魅力発信と新たな交流の創出を図り、もって、村の魅力向上と活性化に資することを目的としています。



# 2 立地条件

整備予定地は、村の中心部に位置する場所で、青木村図書館、青木村歴史文化資料館、青木村民俗資料館に隣接する敷地内で、周辺には青木村文化会館や青木村体育館があり、青木中学校や青木小学校、青木村役場も徒歩圏内に位置しています。

なお、現状において同敷地内のオープンスペースは限られているため、必然的に本施設は青木村図書館と歴史文化資料館をつなぐ渡り廊下南側に配置することを前提とします。



整備予定地

### 3 施設コンセプト

本施設は、慶太翁の実業家、教育者としての功績を単に紹介するだけでなく、施設内外の空間を活用して、慶太翁の建学精神（知・行・信念）を育んだこの青木村での暮らしぶりやその根底にある義民の精神（正義と反骨の心に富んだ「青木村気質」ともいわれる精神）を伝え、学べる施設を目指します。

周辺施設とも連携し、村民や来訪者らの地域間・世代間の多彩な交流の創出を図りながら、**知**（世の中に関心の目を向ける）・**行**（自ら行動を起こす）・**信念**（志を抱き、それを貫く）の精神を培う**人材育成の起点（Railhead）**となることを目指して、施設コンセプトを『学習・交流起点』とし、地域内外から多くの人々の来訪を促す幅広いプログラムと、慶太翁の足跡や建学精神を深く学べるプログラムの提供・展開を図ります。



コンセプト

学習・交流起点

### 4 整備基本方針

立地条件及び施設コンセプトを踏まえて、本施設の整備に際しての基本的な方針を以下のように決めました。

#### 方針① 隣接施設との有機的な連携

青木村図書館の現行機能・利用に配慮しつつ、とくに展示施設として類似性を有する青木村歴史文化資料館及び青木村民俗資料館との機能・利用面での連携・分担を図りながら、隣接施設と一体となって本施設に求められる機能・役割を担保します。

#### 方針② 使い方に柔軟性のある室内空間の確保

慶太翁の生まれ育った時代の生活様式や生家のイメージを大事にしつつ、展示を中心に据えた多様で幅広いプログラムを提供できる空間として、中長期の段階的な利用展開も見据え、使い方に柔軟性のある室内空間を確保します。

#### 方針③ デザイン性と景観的調和・環境配慮の両立

本施設一帯が青木村の学習・交流の拠点となることを目指し、そのメインゲートとして、多くの人々を呼び込む機能と魅力を兼ね備えたデザイン上の工夫を図りながら、隣接施設や周囲の景観に調和し、かつ、環境にも配慮した建物と外構空間を創出します。

## 5 施設計画

整備基本方針に基づいて建築及び外構計画を立案し、本施設の概要と主な特徴を以下にまとめました。

### (1) 施設概要

本施設は木造平屋建てで、青木村歴史文化資料館・青木村民俗資料館の増築施設として建設します。延床面積は約 250 m<sup>2</sup>で、両資料館を含めた延床面積は計約 680 m<sup>2</sup>となります。

なおこの整備に伴い、現在、青木村図書館と青木村歴史文化資料館を結ぶスロープは撤去し、本施設と一体で両施設間の動線確保のための新たなスロープを設置します。

### (2) 本施設の主な特徴

本施設の主な特徴を以下4つの観点で整理しました。

#### 外観・意匠

##### ① 生家をモチーフにした調和のデザイン

- ・建物の東側半分は生家をモチーフにしたデザインで、生家と同じ規格の柱を同一間隔で入れています。これは往時の民家の特徴でもあり、隣接する青木村図書館の和風デザインとも調和します。
- ・盛土地盤の法面<sup>※</sup>も、慶太翁の生家の象徴的要素である間知石積みをデザインとして取り入れています。  
※実際の土留めはこの内側の建築擁壁でもたせています。

##### ② 現代的なイメージを融合させた特徴あるデザイン

- ・建物の西側半分はシルバーの東急車両をモチーフに、やや明るめのグレーの漆喰風塗り壁でモダンに仕上げ、慶太翁が創業した“東急”と“未来創造”を想起させます。
- ・エントランスの庇は東側の桁ラインに合わせ、開口部の両サイドに縦ルーバーを入れることで、東西のデザインの融合を図りつつ、学習・交流起点（メインゲート）であることを特徴付けています。
- ・縦方向に壁に埋め込んだ細い金属製のラインは鉄道レールをイメージしたもので、“未来創造”の象徴としてデザインしています。また、東側の生家をモチーフにした壁面の縦柱とも調和しています。

#### 室内構成

##### ① 多彩なレイアウトに対応できる展示空間

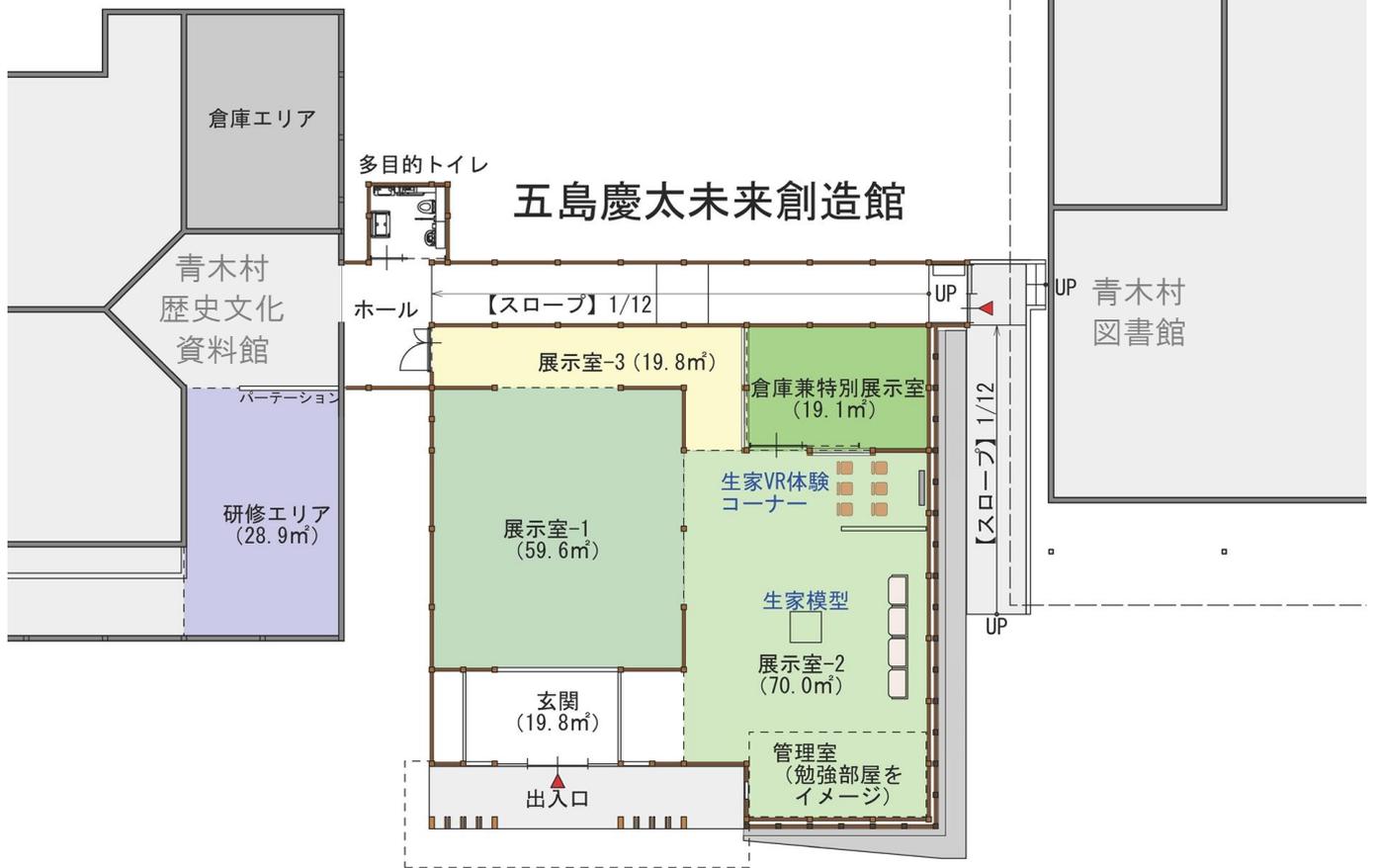
- ・展示室は構造的にもたせられる範囲で、できる限り広い空間を確保し、多彩な展示レイアウトに対応できるシンプルな間取りとします。
- ・慶太翁の生家のイメージや往時の暮らし・地域の様子は、復元精度の高い模型や映像、VRなどの最新技術で学習・体感できる形態で省スペース化を図り、将来の展示の可変性・拡張性を担保します。
- ・隣接の青木村歴史文化資料館に通じる廊下は、パネル展示など展示室として活用することが可能です。また、倉庫は貴重品の展示など特別展示室としての機能も有します。

##### ② 隣接の展示施設との機能連坦と基本的機能の充実

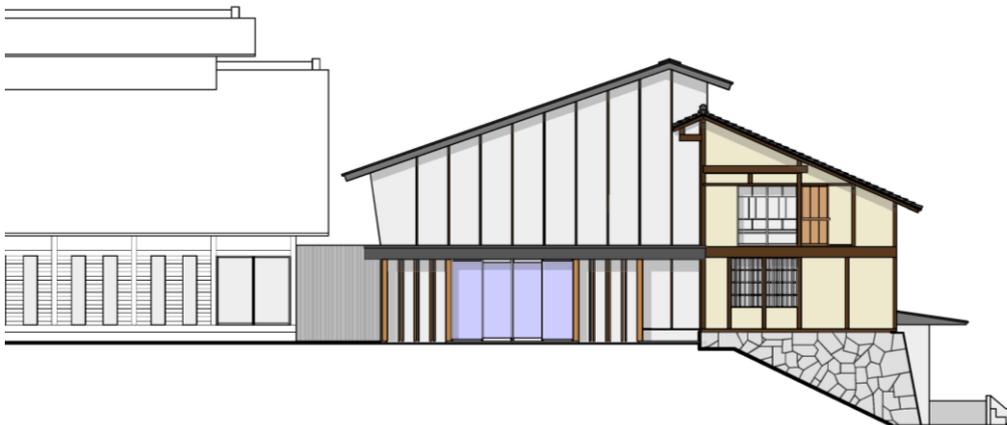
- ・展示室は研修機能も有するものの、別途、隣接の青木村歴史文化資料館内に研修エリアを設けることにより、多様な研修ニーズに対応することが可能です。
- ・既存の青木村歴史文化資料館と青木村民俗資料館にはない管理室やトイレを設けることで、来訪者の利便性を高めるとともに、両施設と一体的で、かつ独立した施設としての基本的機能を備えます。管理室は可能な範囲で生家の材料を用い、幼少期の慶太翁の勉強部屋をイメージした空間とします。



東側立面図



平面図



南側立面図



## 動線

### ① 隣接施設間のスムーズな動線の確保

- 本施設内は下足可の仕様とし、外部からスムーズに入出りできる動線を確保します。なお、同じ展示施設として一体性を有する青木村歴史文化資料館及び青木村民俗資料館は、本施設の整備に合わせて下足可仕様への変更（現在は両施設とも下足不可）を予定しています。
- 青木村図書館は静かに読書や学習する空間としての機能的な独立性を保ちながら、施設管理者や各施設の来館者のニーズに応じて相互利用にも支障を及ぼさないよう、下足・上履きの脱着スペースの確保を含め、円滑な動線を確保します。

### ② 学習・交流拠点としての全体の回遊性の確保

外部空間を通じて、施設間をつなぐ動線上には、歩行者が安全に移動できる園路を設けるとともに、本施設と既存施設共用の広場を設けることで、全体の回遊性を確保し、多彩なテーマでの展示や体験、交流活動等の展開を通じて、学習・交流の拠点化を図ります。

### ③ ユニバーサルデザインの導入

施設内、施設間及び外部空間との内外の動線上には、ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、子どもから高齢者まで誰もが使いやすく、車椅子利用者でも不自由を感じさせない設計とします。

## 外構

### ① 隣接施設間の相互利用可能な駐車場の確保

駐車場は青木村歴史文化資料館の前面に新たに舗装して整備するとともに、青木村図書館の駐車場からのアプローチ動線を確保することにより、両駐車場を施設間で相互利用可能な形態とします。

### ② 多目的な利用を想定した2つの広場の整備

各施設間の回遊動線上に2つの広場（体験広場、交流広場）を設けることによって、子どもたちの遊び場や高齢者の憩いの場として日常的な世代間交流の場、あるいは屋内施設と連携して、屋外展示や各種イベント利用による地域内外の利用者間の交流の場として機能させます。

#### ■広場その1 体験広場（仮称）

青木村民俗資料館の庭的な空間として、各種体験イベントや屋外展示を行える広場にします。

屋内施設と連携した体験プログラム例

○広場（屋外）

- 昔の農機具による作業体験
- 昔の道具や乗り物等の体験 等

○屋内施設

- 昔の農家の暮らし（衣食住工）の体験（囲炉裏体験、そば打ち体験など）
- 冬期の屋内での作業体験 等

#### ■広場その2 交流広場（仮称）

舗装や花壇、スツールなどに鉄道をモチーフにしたデザイン要素を取り込み、様々な交流の図れる多目的な広場にします。

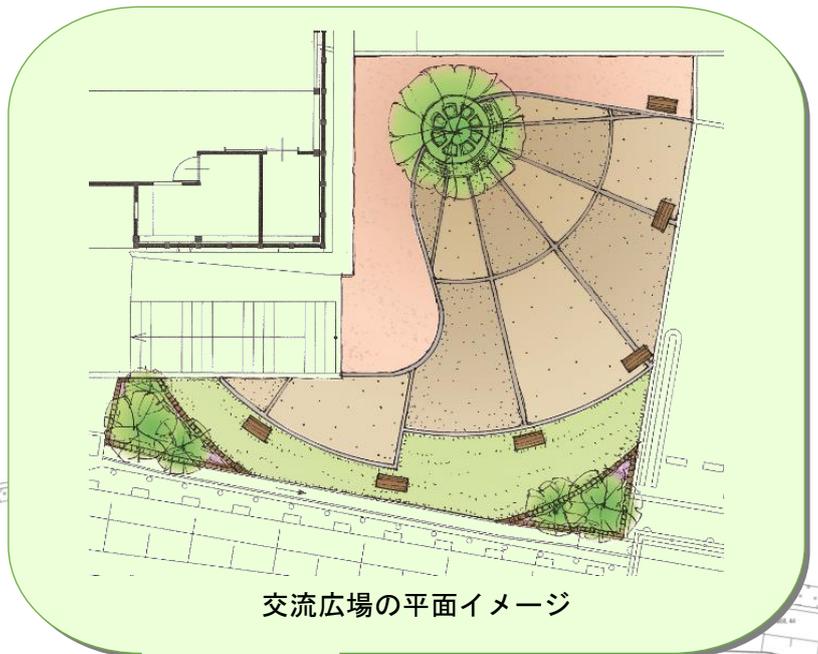
屋内施設と連携した体験プログラム例

○広場（屋外）

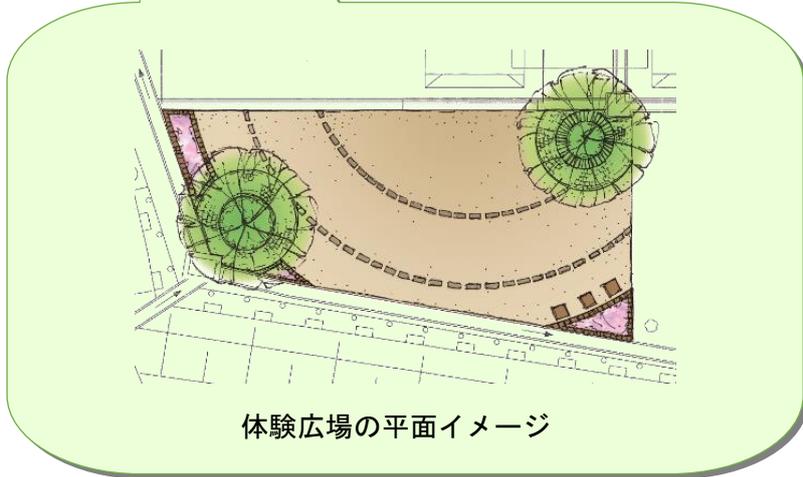
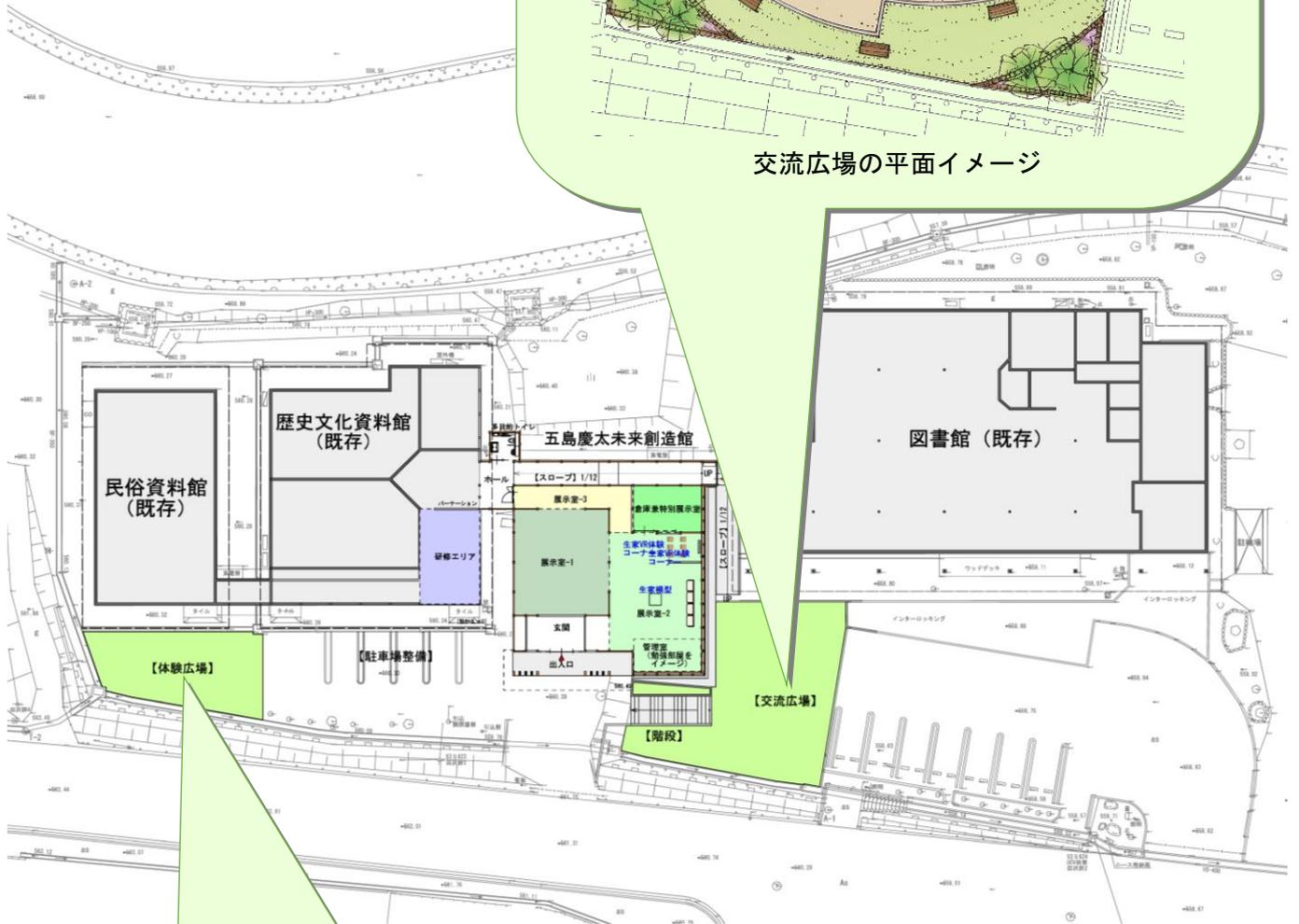
- レールや車輪をモチーフにした花壇での花植え体験 等

○屋内施設

- 東急電鉄の歴史展示や各路線の電車運転の疑似体験ビデオの上映
- 上田温泉電軌青木線など慶太翁とゆかりのある鉄道の歴史展示 等



交流広場の平面イメージ

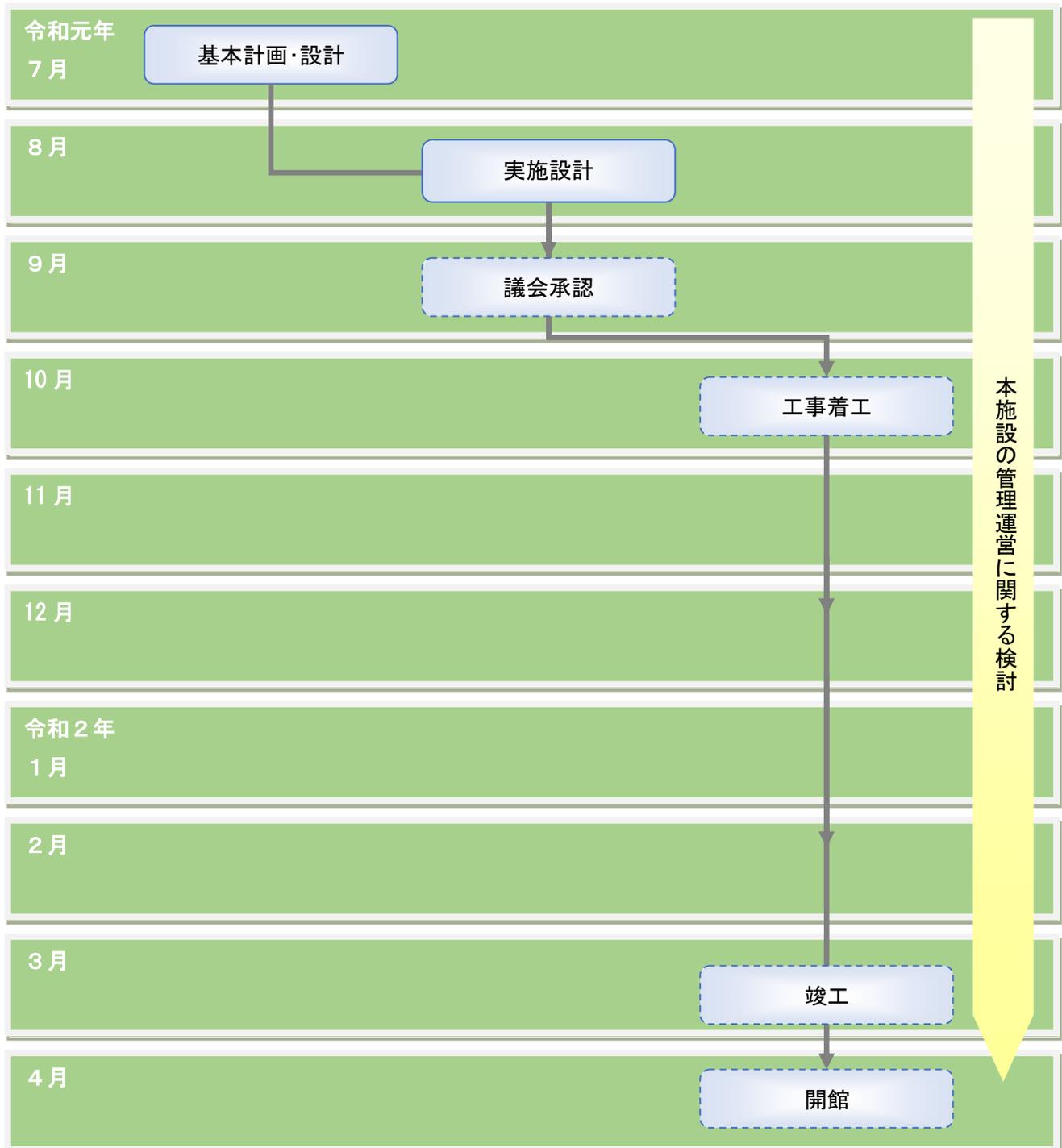


体験広場の平面イメージ

## 6 検討経過及び整備スケジュール

基本計画として本書に示した内容は、本施設の整備をご支援いただく東急グループとの協議やヒアリング、令和元年6月3日～17日の間に実施したパブリックコメント等でいただいたご意見を反映して策定しました。

今後は展示内容の具体化も図りながら、令和2年4月初頭の開館を目指して、概ね以下のスケジュールで整備を進めていく予定です。



## 〈策定経過〉

### ◆住民の皆様からの意見聴取（パブリックコメント）

募集期間	令和元年6月3日～令和元年6月17日
資料の閲覧方法	『広報あおき』令和元年6月号にて基本計画の案を掲載（全戸に配布、青木村役場及び青木村ホームページでも閲覧可）
提出方法	所定の様式に記入の上、電子メールもしくはFAXによる送付、郵送又は担当窓口への直接提出
提出者数	15名
意見及び対応	いただいたご意見の内容と、その段階での村の対応は下表に示すとおり。

項目	ご意見・ご指摘・ご質問	村の対応等
<b>1. コンセプトについて</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>時代の転機とされる今だからこそ、整備に意味がある。</li> <li>郷土にこんな素晴らしい人がいたことを後世に伝えることができている。</li> <li>生家の焼失は残念であったが、未来創造館の建設により、慶太翁の功績を後世に語り継ぎ、未来を担う人材の育成の場となって欲しい。期待しております。</li> </ul>	未来創造館の整備は、まさにご要望いただいたことを目的としており、そのことは整備基本計画にも明記させていただきました。
<b>2. プランについて</b>		
<b>(1) 建物関係</b>		
①平面図	<ul style="list-style-type: none"> <li>生家の復元は、VRや模型でするので、展示や研修など移動可能な、柔軟性のあるつくりにした方がいい。</li> </ul>	ご指摘いただいたとおり、生家のイメージは模型や映像等で伝えることとし、展示面積をできるだけ広くとり、使い方に柔軟性のある間取りとなるよう検討します。
②立面図	<ul style="list-style-type: none"> <li>一目で未来創造館だと印象に残るシンボリックなデザインとして欲しい。</li> <li>外観は既存施設との調和をとりつつ、象徴的な（一部分でも）記憶に残り、その部分を見ると、その施設であると認識できるランドマークを作って欲しい。</li> </ul>	ご指摘いただいたとおり、隣接する図書館や歴史文化資料館との調和は図りつつも、生家や往時の民家の要素を外観のデザインに取り入れました。
③配置・動線	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者には下足を脱いで入館することは大変、既存施設との兼ね合いもあるが、下足対応も検討して欲しい。</li> <li>図書館は静かに本を読んだり勉強をする施設なので、その環境を保ちつつ、既存施設を有効に活用できるように検討をして欲しい。</li> </ul>	未来創造館は下足利用を前提に施設整備を進めます。また、同じ展示施設で建物としてもつながる歴史文化資料館、民俗資料館もこれを機に下足利用可に仕様変更する方向で検討します。 なお、図書館はこれまでとおり下足利用不可の仕様としますが、慶太翁関連の書籍の充実を図り、学習の場としての機能を高めていく考えです。
④展示	<ul style="list-style-type: none"> <li>一等地に慶太翁の胸像を展示して欲しい。</li> <li>駅名票でサインを統一して。</li> <li>目玉になる鉄道の展示をすれば、鉄ちゃんにはうれしい。</li> <li>シミュレーターをおいて欲しい必ずファンが来る。</li> <li>建物の中でも外でもいいので、東急電鉄や上田電鉄をお願いをして、ここにしかない鉄道に関する展示をして欲しい。鉄道ファンは全国にたくさんいる。鉄道王の功績として、鉄道ファンも夢を与えて欲しい。</li> </ul>	展示品や誘導サイン等の内容や仕様をこれから具体化していきますが、いただいたご意見も参考にさせていただきます。 鉄道関連の展示については東急電鉄さんや上田電鉄さんのご協力も仰ぎながら、検討していく考えです。 なお、屋外には鉄道をモチーフにした交流広場を整備する予定です。
<b>(2) 広場関係</b>		
①体験広場	<ul style="list-style-type: none"> <li>民俗資料館の道具を使用して体験型のイベントに活用できるような作りをして欲しい。</li> </ul>	ご要望いただいたとおり、各種体験やイベントに利用できる空間として整備する予定です。
②交流広場	<ul style="list-style-type: none"> <li>5000系を展示して欲しい。</li> <li>カットモデルを展示して欲しい、運転台など</li> <li>昔の木製の車両をモチーフとして東屋を立てたらどうでしょうか。</li> </ul>	上記のとおり、鉄道関連の展示等については東急電鉄さんや上田電鉄さんのご協力もいただきながら、検討していきます。
<b>3. その他</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>上田交通とのコラボイベントで人を呼び込んで欲しい</li> <li>歴史文化資料館、民俗資料館とも木の温もりを感じ、とても良い施設であるが、利用者がすくないので、新しい施設を整備するとともに、今の施設の展示なども再度検討して欲しい。</li> <li>村民は年金は減れされ、物価は上がり苦しい生活を強いられている。国保税は高い。村民の福祉のためにお金は使っていない。</li> <li>維持管理費を考えたら箱モノはもういらぬ。乗っ取りで会社を大きくしたということは、路頭に迷う人を多く出した。顕彰する意義はないと思う。</li> </ul>	交流機能を高める各種イベントの実施については上田電鉄さんを含め、様々な組織・団体の皆様と連携していく考えです。 そうした取り組みも通じて、「学習・交流起点」としての施設認知度を高めながら、既存の歴史文化資料館や民俗資料館の展示レイアウトの改善も図り、一体の魅力向上を目指します。 未来創造館の財源は、国の交付金と関連する企業からの寄付金で整備を予定しています。村の財政状況を踏まえて、身の丈にあった整備・運営を進めてまいります。

## ◆東急電鉄様からのヒアリングその1

意見受領日	令和元年5月31日
提示資料	基本計画の素案
意見及び対応	いただいたご意見の内容と、その段階での村の対応は下表に示すとおり。

No.	ご意見・ご指摘・ご質問	村の対応等
1	<p>・五島慶太未来創造館の道路側の出入り口を、資料館(・図書館)へのアプローチも兼ねたメインゲートに位置づけることは可能でしょうか。</p> <p>⇒その場合には出入り口付近の建物外観の意匠の工夫も可能でしょうか。</p>	<p>・資料館(民俗資料館、歴史文化資料館)を含めた施設のメインゲートとしての位置づけは可能と思われます。</p> <p>・図書館は静かに学習する場でもあるので、連携は大切とは考えますが、関連する別施設として捉えています。</p> <p>・現案では五島慶太未来創造館としてのファサードをイメージしていますが、既存施設と一体的な施設として統一的なデザインにすることも選択肢に入ります。</p>
2	<p>・観光バスで数十人で訪れることを考えると、出入り口のスペースは狭くないでしょうか。</p> <p>⇒スリッパ対応、それとも土足を袋に入れる対応かによっても、下駄箱スペースなど出入り口のしつらえを考える必要があるかもしれません。</p>	<p>・現案では、展示室の想定規模から収容人員を以下のように算定するなかで、概ね適正と考えられる広さを確保しました。</p> <p>① 展示室(16.3㎡:5名)                  ② 常設展示室(33.1㎡:11名)                  ③ 企画展示室(33.1㎡:11名)                  ①+②+③=約27名(収容人員)                  ※収容人員単位:1名/3㎡                  ※生家再現スペースはイベント利用が主と考えて団体利用の展示スペースには参入しておりません。</p> <p>・玄関で靴を脱ぐことを想定して、このスペース内に上記収容人員分(30足程度)の靴を収納する下駄箱を置くことは可能です。</p> <p>・来館者の利便性を考えると、下足可にすることも考えられます。その場合、資料館についても現行運用を変えて下足可にしたほうが使い勝手がよいと考えます。</p> <p>・図書館については、現行運用どおり土禁としておくのが望ましいと考えますが、資料館側へ移動する際に、下足スリッパを用意するなどの対応は考えられます。</p>
3	<p>・児童が入場するため、囲炉裏は、火事、火傷の危険性から、人手が必要な本格的なものは難しいかもしれません。</p>	<p>・囲炉裏部屋で火気使用可とすると、火気使用室となり、建築基準法に適合させるためには、囲炉裏の上部にフードを設けた換気システムの設置が必要となり、内装仕上げにも制限が生じます。</p> <p>・上記の必要な対策を施して整備しても、ご指摘のように管理上の問題もあるため、囲炉裏部屋の要否も含め検討の余地があるかと思えます。</p>
4	<p>・室内構成の東側半分は、あまり細分化せず、囲炉裏(簡易的なもの)、勉強部屋を中心に構成して、来訪者が休めるスペースを確保し、オープンなイメージとするのはいかがでしょうか。</p> <p>⇒その場合、研修室などのスペースは民俗資料館などとあわせて検討することは可能でしょうか。</p>	<p>・ご指摘のとおり、生家をイメージする東側部分を作り込んでしまうと、相応の面積を要するうえに施設をフレキシブルに使用できなくなるため、復元は勉強部屋などに限定し、展示空間をより広く確保した方が有効ではないかと思えます。</p> <p>⇒それでもなおスペースが限られていますので、既存施設とも連携して、展示しきれない展示品を資料館に展示したり、歴史文化資料館の一角を研修スペースとして利用するなど、資料館を含めて機能整理することも考えられます。</p>
5	<p>・子供たち(児童や学生)を対象に、五島慶太の功績を理解してもらい、青木村を誇りに思ってもらうための場所であり、また、外部からも、多くの人に訪れてもらい、青木村の素晴らしさを認識してもらう機会を提供する場でもあると思います。そのためにも、繰り返し来ていただくための工夫が必要だと思いますので、ご一緒に考えて行ければと思います。</p> <p>・五島美術館とも連携して、ご提案できればと考えております。</p>	<p>・事業の成功や教育に力を注いだ慶太翁に関する資料については、東急グループ様や五島美術館様、東京都市大学様らのご協力を賜り、五島慶太未来創造館完成後も意見交換をさせていただきながら、物・アイデアなど相互に連携する仕組みについてご助言を賜り、検討していきたいと思えます。</p>

## ◆東急電鉄様からのヒアリングその2

意見受領日	令和元年6月7日
提示資料	基本計画の案
意見及び対応	いただいたご意見の内容と、その段階での村の対応は下表に示すとおり。

No.	ご意見・ご指摘・ご質問	村の対応等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>もう少し生家の復元をして欲しい。囲炉裏の間の上の吹き抜け空間が一番の特徴。</li> <li>石垣は重要。</li> <li>可能であれば建物の方位くらいは合わせたかった。</li> </ul>	<p>本施設のコンセプトを踏まえ、室内は「学習・交流起点」としての機能を重視した空間構成としました。</p> <p>ただ外観には、建物の規模こそ異なれど、生家をモチーフにしたデザイン要素を取り入れるとともに、現地の高低差を活かして石垣も整備します。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画図上で「茶室」となっているところは本来囲炉裏の部屋のはずだが、茶室にするのか。</li> </ul>	<p>茶室は復元としてではなく、お茶を趣味にしていた慶太翁にちなんで組み入れたものですが、利用を限定してしまうため、その要否も含めて室内の空間構成を再検討する余地があると考えています。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>生家を当時の形で残したいという思いと利用者のことを考えた空間整備のバランスのとり方が課題。実際には研修機能は隣接施設に担保させることも考えられる。</li> </ul>	<p>空間構成の検討においては、利用者寄りの空間整備や隣接施設との機能分担も考慮に入れさせていただきます。</p> <p>復元する以上は間違ってもいけない面もあり、勉強部屋などはその位置に諸説あるものもあるので、部分的な再現も含めて、最適な表現方法を検討します。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>復元にこだわるわけではなく、空間構成は生家を模してつくったほうがよいのではないか。</li> <li>生家の模型を建物内に展示するのであれば、生家の全容はその模型でイメージできるので、必ずしも実際の空間として再現しなければいけないわけではない。</li> </ul>	<p>往時の間取りなど何かしらの形で表現することも視野に入れつつ、模型や映像など多面的な手法を検討していきます。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の事例からみても、この手の施設には作り手の意思が色濃く反映される。本施設は、慶太翁の功績(と現在のつながり)を単に紹介するだけでなく、慶太翁の愛すべき郷土青木村につくられるということを意識したつくりが必要。</li> </ul>	<p>慶太翁の功績はわかりやすい形で整理しながら、まとまったところで段階的に展示・紹介していきたいと考えています。</p> <p>また、現在収集中の小林時代の資料をもとに、既存の隣接施設(青木村歴史文化資料館、青木村民俗資料館)の有効活用を図りながら、何度も来てもらえる施設にしていきたいと考えています。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>青木村の子どもたちに何を伝えるのか、明確なストーリーを持って検討していくとよい。</li> <li>慶太翁のスピリッツと義民精神を結び付けられるとよい。</li> </ul>	<p>ご指摘を踏まえ、青木村らしさを出せるようハード・ソフトの両面で検討していきます。</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体の設計・施工のスケジュールも勘案するなかで、3Dなどでイメージ共有を図りながら、形や配置から決めていくことが大事。そうすることで、工期の短縮や工法の工夫などが見えてくる。</li> </ul>	<p>来年4月の開館を目指して、滞りが生じないよう綿密なスケジュールを立てて設計・施工を進めていきます。</p>



---

## 五島慶太未来創造館（仮称）整備基本計画

発行年月 令和元年6月  
発行 青木村  
編集 青木村役場 総務企画課 事業推進室  
〒386-1601  
長野県小県郡青木村大字田沢 111 番地  
電話：0268-49-0111（代） FAX：0268-49-3670  
メール：somu@vill.aoki.nagano.jp

---

